



子どもを主役とした地域共生型社会づくりの実践 ～学校・企業連携の可能性～

はじめに

公益社団法人日本フィランソロピー協会では、青少年育成事業として、2011年度より「募金活動を核としたサービスラーニング」の推進事業を行なって参りました。地球環境の悪化が懸念され、社会課題がますます複雑化していく中で、子どもたちにはまだ答えのない問いに対応していく力を付けていくことが求められており、学校、保護者、地域社会、企業からの健全な次世代育成事業への期待は高まっています。そのような中、改めて学校教育の中で、基礎となる教科学習と実社会の課題とを相互に関連づけながら学ぶ「サービスラーニング」の実践を広げることの意義を感じております。

子どもが地域の主役として活躍する環境を作るためには、学校、企業、地域、それぞれのセクターがお互いに協力し合う継続的な関係づくりが必要ですが、個々に素晴らしい事例はあるものの、まだ大きな流れになるよう継続的な働きかけが必要です。

当協会では2018年度、公益財団法人JKAの補助事業として、東北・東京・大阪・福岡の各エリアにおける子どもたちが核となる地域の社会貢献活動のサポートを行ない、各活動の報告・啓発の場として、東京・大阪・石巻でそれぞれセミナーを実施するとともに、最後3月、それらの総括を行なう「合同報告会」を開催致しました。

本報告書には、セミナーや合同報告会で紹介された内容を、「Ⅰ：まとめ・トピック」「Ⅱ：学校の取り組み」「Ⅲ：企業の取り組み」「Ⅳ：地域の取り組み」としてまとめました。「生徒が変わる 学校が変わる 地域が変わる」取り組みがなされている現場では、やはり各セクターの密な協力関係が存在します。合同報告会では、子どもに一番近い所で寄り添う先生方とともに、まさにその点について議論を深めることができました。

当協会は引き続き、中間支援組織として各セクターの連携を推進し、子どもたちにとってより良い社会貢献活動の場づくりをサポートする役割を担っていきたいと考えております。子どもたちによる地域づくりがさらに広がり、地域創生へもつながっていくことを期待し、本報告書が子どもたちの現場に関わる皆様のお役に立ちますことを願っております。

2019年3月

公益社団法人日本フィランソロピー協会

【本報告書に収録された講演が実施されたセミナーおよび合同報告会】

	日にち	会場
東京セミナー	2018年12月2日（日）	TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター
大阪セミナー	2018年12月22日（土）	TKP 大阪梅田駅前ビジネスセンター
石巻セミナー	2019年1月26日（土）	石巻商工会議所
合同報告会	2019年3月10日（日）	TKP ガーデンシティ PREMIUM 田町

目次

【Ⅰ：まとめ・トピック】

1. 学校教育における子どもたちの社会貢献活動の意義と課題
「子どもが変わる 学校が変わる 地域が変わる」
2018 年度事業合同報告会 ……3
2. 学校・企業・NPO が育てるシティズンシップと地域創生 ……11
唐木 清志氏（筑波大学人間系 教授）
3. ハッピーマネー教室®で子どもたちに伝えたいこと ……14
岡本 和久氏（I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社 代表取締役社長）

【Ⅱ：学校の取り組み】

4. 地域に支えられて継続する社会貢献活動／杉並区立杉並和泉学園 ……21
5. 社会に開かれた教育課程の実践／江東区立深川第二中学校 ……24
6. ボランティア活動が高校生の成長を促す ……27
大阪府立長吉高等学校／大阪府立東住吉高等学校
7. 福岡市 堅粕交通少年団 飲酒運転ゼロ大作戦／福岡市立堅粕小学校 ……32
8. 被災者に寄り添う支援／東北学院中学校・高等学校 ……35
9. 石巻の未来に向けて 地元中学生からの提案／石巻市立石巻中学校 ……39
10. 高校生国際フォーラム in 石巻西高等学校／宮城県石巻西高等学校 ……42

【Ⅲ：企業の取り組み】

- 1 1. 子どもたちへの気づきをもたらし、力を育む ……44
NEC ソリューションイノベータの取り組み
- 1 2. 大阪ガスの防災プログラム「考える防災教育」について ……46
- 1 3. ジェンダー平等に向けて、学校と企業が若者の挑戦を支援 ……49
Gender 平等啓発ワークショップ／資生堂
- 1 4. 小学生向けキャリア教育プログラム ……52
阪急阪神 ゆめ・まちチャレンジ隊／
阪急ゆめ・まち わくわく WORK プログラム

【Ⅳ：地域の取り組み】

- 1 5. 「ひとりぼっちのいないまちづくり」 ……56
—地域・家庭・学校・行政・大学・企業と連携しながら
ただいま～と言える子どもの居場所をつくる—
一般社団法人タウンスペース WAKWAK
- 1 6. 石巻を日本で一番面白い街にするために ……59
一般社団法人 ISHINOMAKI2.0
- 1 7. 郷土愛を育む「高校生百貨店」プロジェクト ……62
特定非営利活動法人かぎかつこ PROJECT

1

学校教育における子どもたちの社会貢献活動の意義と課題
「子どもが変わる 学校が変わる 地域が変わる」

【2019年3月10日（日）2018年度合同報告会】

参加者：唐木 清志氏（筑波大学人間系 教授）

岡本 工介氏（一般社団法人タウンスペースWAKWAK 事務局長）

神山 和英氏（大阪府立長吉高等学校 教諭）

齋藤 漠興氏（杉並区立杉並和泉学園 生活指導主任／主任教諭）

柴田 隆一氏（東北学院中学校・高等学校 教諭）

高橋 良久氏（江東区立深川第二中学校 校長）

富田 年久氏（大阪府立東住吉高等学校 教諭）

中澤 宏一氏（前宮城県仙台二華中学・高等学校 副校長）

二田水 祐倫氏（福岡市立堅粕小学校 主幹教諭）

増田 裕子氏（板橋区立板橋第一中学校 校長）

事務局：高橋 陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長）



（後列）二田水氏 齋藤氏 富田氏 神山氏 高橋（良）氏 岡本氏 柴田氏

（前列）中澤氏 高橋（陽） 唐木氏 増田氏

（１）子どもが変わる：社会貢献活動は子どもたちの自尊感情・自己肯定感を高める

富田：1995年、阪神淡路大震災が起きた年に大阪府立長吉高等学校でチャリティーリレーマラソンを始めて15年間続け、その後東住吉高等学校へ移り、活動を続けております（p27参照）。1995年から考えたら25年目になりますが、生徒も、僕自身もボランティア心が満載ということではなくたまたまそうなってきた、でも生徒たちはボランティアをやるハードルが下がってきて、自分たちのやったことが社会に貢献できるということを知ることができたのが良かったのか、高校生たちは活動的です。

【I：まとめ・トピック】

神山：特に、長吉高等学校みたいに、勉強の苦手な子たちが集まっている学校に通っている生徒たちは劣等感を持っている場合が多いですが、ボランティアに参加して社会とつながることで、自信を持って顔が変わり、学校生活も変わってきます。「これはすごい！」と僕はめちゃくちゃ感動して、富田先生に惚れ込んでしまいました。実は彼の方が年下なのですが弟子入りし、5年間一緒に活動し、彼が転勤した後も引き継いで10年間続けています。

富田：今後、高校だけでなく小学校や中学校にも広げていきたいと思っています。また今、学校からの募金で奨学金制度を作ってもらっているNGOが、高齢化により2年後に終わってしまうので、その奨学金制度を引き取りNGOを作るつもりです。この活動では目に見える相手としてネパールの子どもたちがいて、フィードバックとして小学校の子どもたちの手紙を送ったりもできるので、継続したいと思っています。NGOを作りながら若手につないでいき、全国に広げていきたいという夢を持っています。

唐木：子どもたちが社会貢献活動に関わる意義として、なかなか自分に自信がない子ども達が活動を通して積極的になって自信をつけるという自尊感情の醸成と、自分で社会を変えられることができるという意識・市民性の醸成という2つの点があり、その点について杉並区立杉並和泉学園（p21参照）や福岡市立堅粕小学校（p32参照）の活動ではどのように感じているか聞かせて下さい。

齋藤：今年の9年生は、人間関係がうまくいかず、自分に自信も持てず、将来の目標も持てない生徒たちが多かったと思うのですが、この活動を通して子どもたちの方から、「将来、自分ができることを小さなことでもいいからやってみたい」「小さなことでも何か変えられるのではないか」ということを普通に喋るようになり、驚きました。自分たちのクラスという狭い世界から外に目が向き、クラウドファンディングなどにも興味を持つようになり、この活動が社会との接点になったと思います。社会に対して何か働きかけができるのではないかという気持ちが、生徒の中に育てられた気がしています。

二田水：私も似たようなことを感じています。堅粕小学校は小規模で単学級のために人間関係が固定化し、子どもたちのコミュニケーション能力が育たないという課題があり、異学年交流を通して、一人ひとりの役割に気づいていく、ということを行なっています。堅粕交通少年団も縦割りで3～6年生の交流ですが、募金活動は9月からの活動ですので、それによってどのように変わったかについては今はまだ言えません。交通少年団の子どもたちは自主的に入ってきた子たちで、ボランティアで朝早くからの挨拶運動をすることで町全体が明るくなり、内気な子は最初はなかなか自分から挨拶をすることはできませんが、繰り返し行なう中で、自分に自信が付いてくることはあると思います。ただまだ数十名での活動ですので、それを学校全体に広めるためにはどうするのかについては考えていく必要があると思います。

唐木：交通少年団に入っている子どもたちから、周りの子どもたちへの働きかけはありますか。

二田水：団員である子どもたちが積極的に誘っているというよりは、皆、自分で考えて入っています。団員が少ない時は、教員から声掛けをしています。38年間続いている活動なので、もう少し広げて子どもたちに意義を伝えたいと感じています。

唐木：杉並和泉学園は総合の学習の時間で活動していますが、江東区立深川第二中学校ではボランティア部の活動として実施しています（p24参照）。ボランティア部に所属している生徒たちから、学校全体に広げていくような働きかけはありますか。

【I：まとめ・トピック】

高橋（良）：地域の盆踊りや募金活動についても、ボランティア部の生徒から他の生徒に呼びかけて集めるので、そういう部分で少しずつ社会に貢献しよう、社会に役立とうという気持ちは出てきていると思います。ただそれが、全校的なムーブメントとして起こるには、もう少し周りの教員の働きかけがないと、難しいと思っているので、やはり総合的な学習の中で、取り組めるような形を考えていかなければならないと考えています。

唐木：総合的な学習の時間の中にボランティア活動を組み込むということは勇気がいることです。それは果たしてボランティアなのかという問題もあり、杉並和泉学園のようにここまでスムーズに入るケースはそんなに多くはありません。聖粕小学校や深川第二中学校の活動は教科外活動であり、学校外活動です。学校のカリキュラムの中に活動をどう入れていくのかは永遠的な課題だと思います。高橋先生は、いずれは授業の中にボランティア活動を取り入れたいという意図をお持ちですが、他の先生方や教育委員会の理解への壁は大きいのですか。

高橋（良）：やはり始めは先生方にこの活動の意義を理解してもらい、これを中心にして、組み立てる。理解してくれる教員はいますが、そうではない教員もいます。強いリーダーシップで進めれば良いのかもしれませんが、私がいなくなっても続くような形を作っていかなければならないと考えています。私の前任校である江東区立有明中学校でも、生徒会を中心にした活動が続いているので、今の学校でも私が始めたことが続く形ができないかと考えています。

（２）学校が変わる：一人の先生の活動から学校全体の活動へ

唐木：社会貢献活動のインパクトを考えた時に、まず、生徒たちへのインパクト、生徒たちが自尊心や市民性を持つ方向で変わるといえることがあります。次に、深川第二中学校の事例のように、学校が変わるといえる点があり、最後にもう1つ、地域が変わるといえる点があります。社会貢献活動により、「子どもが変わる 学校が変わる 地域が変わる」という点考えた時、本日の事例発表を聞く限りにおいては、生徒が変わるといえる点については随分と良い効果を及ぼしていると思います。ただ学校や地域となると、結構ハードルが高い。実際、ここにいる先生方も孤軍奮闘的なところもあるのではと思いますが、長吉高校、東住吉高校では活動が次第に他の先生方に伝播し、影響を及ぼして先生方も変わり、学校も変わっていく、まさに「チーム学校」という流れになったのには、どのようなきっかけがあったのでしょうか。

神山：長吉高校のチャリティーリレーマラソンは生徒実行委員会が運営しており、そういう意味では一部の生徒の取り組みですが、それを全体のものにしなければならないという意識がありました。そこで富田先生は、総合的な学習の時間の授業の中でチャリティーリレーマラソンのことを取り上げるようにしました。今は私が受け継いで1年生の総合的な学習を担当し、全生徒に教え、参加したいと思ってくれるようになりました。そうやって全校生徒が参加し、学校の恒例行事として生徒たちの間に広まってくると、学校としても教育の柱にしなければならないという形になると思います。

当校は勉強が苦手な生徒が多く、定員の半分を面接でとる学校です。その時のアドミッションポリシーの1番に、「ボランティア活動で頑張りたい生徒さん、来てください」と書いています。富田先生が始めたことでしたが、今やそれは学校全体のものになっています。転勤してきた先生方も、最初は嫌がっていても次第にやってくれるようになります。今は教育

【I：まとめ・トピック】

の柱になっていますし、それが地域に広がって行って、地元の町会から色々な申し入れがあります。団地の草抜きなどを手伝い、感謝の声をかけてもらって生徒も喜ぶという関係ができてきたと思います。

当校に入ってくる生徒の多くは、当校にしか来られなかった生徒です。でも入学してみたら、その学校がネパールに4つも小学校を建てていて、毎年、学校に行けない400名以上の子どもたちに奨学金を送って学校に通わせている。そんなすごい学校に来たということで、逆に子どもたちが中学校の先生に「うちの学校こんなすごい学校なんやで」と言いに行くという形になっています。それはやはり、最初の授業があるからだと思います。

唐木：カリキュラムの中に入れていくのがポイントということですね。堅粕交通少年団はあくまで任意の活動で、学校の教育課程の中には入っていない。総合の時間の中などに入れるということはこれまで考えられたことはあるのでしょうか。

二田水：堅粕交通少年団は、地域の交通安全推進委員や自治会長が中心となって組織しており、学校と地域が一体となった組織です。改善するにしても学校だけではなく、地域との関連が必要です。私もずっと総合学習をしている人間で、東日本大震災の際には募金活動をしました。1年だけの単発的なもので終わったので、今後、継続できるものを考えていくことが、私自身としての課題と考えています。この堅粕交通少年団を授業にするのはすぐには難しいかもしれませんが、ボランティア活動や社会貢献活動を総合の中に入れていけるのではと思っています。堅粕交通少年団とリンクさせる可能性はあると思います。

唐木：交通少年団の活動は、多くの子どもたちに影響を及ぼすような良い取り組みなので、ぜひ広げる努力をしていただきたいと思います。

中澤：現在宮城県の教育委員会におりまして、主に校長研修会担当しています。東北大学で教育課程論、いわゆるカリキュラム論の授業もしています。東北大学には、かなり学力の高い学生が来ています。彼らに、総合的な学習の時間について話をしますと、「私はそんなことをやっていない」「総合の時間が数学に代わることがあった」と言われることが多々あります。唐木先生がおっしゃるように、総合的な学習の時間は大きな意義を持っており、文部科学省は適当に扱わず、大事にするように言っています。それが、安易に教科の時間に振り替えられている現実を見ますと、今日この場にいる先生方が取り組まれている授業や活動の方が、よほど総合的な学習の時間の趣旨に合致していると思います。先生方の取り組みは、間違いなく生きる力をつける活動になっていますので、後はそこにどう価値付け、意義付けをしていくのかが非常に重要だと思っています。

2点目は、小学校・中学校・高等学校とありますが、校種が上がるにつれて先生方との議論が難しくなるという課題があります。国は、学習指導要領を変えていきます。しかし、小中学校には、それが教室の中まで入るが、高等学校は教室まで入らないということが言われます。私は大きな課題だと考えております。宮城県に限らず、教育委員会として少し頑張らねばと思っています。

先日、大阪市教育センターの会議に参加しました。大阪市には民間人校長が多いようですが、そこには賛否両論があるようでした。どうしてもトピック的な学校経営になってしまうという指摘もありましたが、民間人校長ならではの人脈を活かした、本物に触れる教育が行なわれている例もありました。本物が持つ力はとても大きいので、うまくバランスをつけていければ良いと思いました。

【I：まとめ・トピック】

1月26日の石巻セミナーでは、宮城県石巻西高等学校が発表しました。私は、生徒が発表した高校生国際フォーラム（p42参照）を企画した時の教頭でした。資金不足等が大きく影響し、残念ながら今のような形での開催は今年度で終了するようです。今後、続けるための募金活動等を行なうのも難しく、次年度からは規模を縮小せざるを得ないようです。資金不足が理由で縮小して良いのかということを各方面には伝えているのですが、厳しい状況です。このあたりも、自分の課題の一つだと思っています。

（3）地域が変わる：子どもたちの声を受け止める地域の組織づくり

唐木：「地域が変わる」という点は、岡本さんが一番専門にされていることだと思います。子どもたちが地域を変えていくエネルギーみたいなものは実感されていると思いますが、このあたり、どのように地域の人たちの意識や行動を変えていったのかという点について補足で説明していただけますか（p56参照）。

岡本：そもそも、子どもたち自身が変えていく力を持っているという前提で関わっています。道筋と仕掛けを作るのは学校や地域側だと思いますが、僕はどちらかというと地域側の者なので、地域全体をマネジメントするという立場で関わっています。地域・家庭・学校・行政・大学・企業を超えたネットワークの仕掛けをどのようにつくっていったかという流れは、コミュニティーオーガナイズーションの流れそのものとすごく重なっていると思いました。最初は個人の願いからスタートし、それを地域の願いに変えていく、その地域の中には学校も当然入っている。その下地をつくることを一番大事にしています。

「わくわく食堂」は政策を変えることを目指していたので、市長を巻き込み、そこに子どもたちの声を届ける仕掛けをつくりました。高槻市は約35万人が住んでいますが、子どもの貧困を扱う窓口はありませんでした。その中で予算を得ることを考えると、市長の参画が必要と考え、まずは「わくわく食堂」という一つの社会資源をつくって、そこに市長をはじめ、高槻市子ども未来部さんなどに来ていただきました。行政の中で役割を担っている大学の先生方に参画していただき、市としては断れない状況を意図的につくりました。

その時に学校の先生と話したのは、子ども達の声が届けるということです。子どもの貧困の実態を、当事者である子どもが、脚本を書いて映像化し、公開しました。NHKで番組を制作してもらいましたが、一番印象的だったのは、僕らがどれだけ言うよりも、子どもたちの声が一番届くということ。何よりも自治会の役員さんなど、なかなか「うん」とは言わない方が感動したと言ってくださったり、「死ぬまで活動したい」と言ってくださるボランティアさんがいらっしやったり、子どもの持つ力はすごく大きくて、子ども自身が街を活性する主人公だということをまざまざと見せつけられました。

唐木：今、私の博士課程の大学院生がシカゴで「ユースボイス」「スチューデントボイス」を研究しています。子どもの声を社会に発信する方法をカリキュラムの中に取り込む方法について調べています。シカゴは黒人が半分以上で、マイノリティがマジョリティになっている。子どもたちはどこか自信がないし、暴力を振るってしまうところがありますが、自信を持たせて声を届けるという体験を通して成長していきます。ただ、それを受け止める地域がないといけない。声を挙げても、届いている感覚がないと意味が無い。組織は受け止めるための土壌になるので、これも広い意味での教育環境だと思いました。さらに岡本さんに聞きたいのは、この事業で学校の先生は変わるのか、ということです。

【I：まとめ・トピック】

岡本：学校の先生には様々な方がいらっしゃいますが、この取り組みを始めた時は担任の先生と校長先生の3人がコアとなって準備し、全体化しました。NHKさんの力をお借りして「映りますよ」と言って巻き込んでいきました。

（４）子どもたちの社会活動を広げるための学校・企業・地域の役割とは

唐木：子どもたちの社会貢献活動を広げるためには、資金の問題と本物を連れてくるというネットワークがとても重要で、学校は市民団体や企業に期待するということが当然出てくるのではないかと思います。例えば、日本フィランソロピー協会に連絡すると連携する企業を紹介してもらえる。このような所につながるメリットは相当高いのではないかと思います。

杉並和泉学園は社会貢献活動を長く続けられていて、これは正直驚きです。学校のカリキュラムになってはいるものの、校長先生が変わったら止める可能性があり、この点についてはサポートしている日本フィランソロピー協会の意義があるのではないかと思います。どのように代々受け継がれているのかを含めて補足してもらえますか。

齋藤：確かに校長が既に変わっているので衰退してもおかしくないのですが、ひとつは、子どもたちに相当良い活動だということを、教員側がだいぶ認識できているということがあります。新しく来た先生方にも体験していただくと「これは良い活動ですね」という声が出てきます。ただ、この企画をする労力は大きく、予定を全部組んで募金の周り方を変え、去年よりレベルアップしようとする、仕事量はかなり増えます。いかにコンパクトにして授業数を少なくすること、前年度の資料を適切に引き継ぐというところを、確実にこなすことが重要です。その過程の中で日本フィランソロピー協会さんに授業を手伝っていただいたり、企業・団体をつないでいただいたりしています。最後、子どもたちへフィードバックがあることがとても大事だと思っていて、今回もぎりぎりにはなりましたが寄付先から報告の写真が届き、子どもたちが食い入るように見ている姿が教員にも伝わり、他の学年の子どもたちにも伝わったことはとても大きいと思います。日本フィランソロピー協会さんの協力がなければそれは無理なので、存在意義は大きいです。

高橋（良）：中学2年生で職場体験学習を行ないますが、これまで地域の商店街や保育園、地域にある事業所でしかなかなかできなくて、銀行や大手の企業は引き受けてくれないです。日本フィランソロピー協会さんに相談して、りそな銀行やNECさんを紹介していただいて職種が全体的に広がると、子どもたちの夢も広がっているのではないかと思います。

唐木：日本フィランソロピー協会から職場体験学習先をいくつか紹介しているということですね。それは結構珍しいと思います。堅粕小学校では、特定の企業ということではありませんが、地域の団体と、どのような関係性を築いているのでしょうか。

二田水：交通安全推進委員会は自治会長さんが中心となり、博多区役所、博多警察署、PTAの会長が入って組織しています。学期に1回、交通安全推進委員会が開かれ、その時に合わせて子どもたちの学習会も行なっています。今回募金活動については、特定非営利活動法人はあとスペースと、西日本シティ銀行の方と一緒に行ないました。はあとスペースの山本美也子さんには、少年団だけでなく、2年前に全校に向けて飲酒運転撲滅に向けたお話をいただきました。

高橋（陽）：当協会が推進する社会貢献活動は、ニューヨークのペニーハーベストというプログラムを参考にしており、異年齢で行なうと非常に意味があります。学校はなかなか異年

【I：まとめ・トピック】

齢でやりにくいのですが、杉並和泉学園は小中一貫になったので、活動を小学校と一緒に異年齢でやっていただくというのが次の課題だろうと思っています。

柴田：東北学院中学校・高等学校の活動（p35 参照）では、昨日の3月9日、旧仮設の方々をお招きして、学校でメモリアル行事を行なうことができました。今年は、去年よりも多くの生徒が集まり、大人数で行事が出来たのでとても良かったと思っています。継続して行なう中で、中高生と、卒業生や社会に出た子どもたちが戻ってきて後輩たちと一緒にやってもらえるということが出てきています。

仕組みに落とすというところでは、当校では校長が変わり、仮設住宅との交流行事に声をかけたところ、定期的に参加をしてくれるようになりました。当校は今年学校創立 132 年で、法人として創立 150 年に向けての学校経営の目標を掲げているのですが、その中に日本フィランソロピー協会と一緒に地域づくりをするということがさりげなく入れてありました。ある意味お墨付きをいただいたというか、学校としてやりましょうということにはなっています。ただ、教員も 80 名おり、もちろん理解度はそれぞれ違っており、私自身も部署を移り、先頭に立っている訳ではありません。校長が執行部の活動を専門で見る教員を 3 人配置し、それに加えて昨日も 1 名若手が来て 5 人で一緒に参加しましたが、そういう意味では、学内の生徒会としての活動は、バックアップできる体制はとれています。

ただカリキュラムとしてはなかなかハードルは高いです。当校は総合の時間を 2 年前にリニューアルし、柱を ESD とキャリア学習という 2 つにして、その ESD 学習の中で、地域の課題を見つけることを低学年で行なっています。今年の中学 2 年生は、クラス単位で近くの子供食堂の支援に取り組みましたが、継続性のあるカリキュラムにはまだなっていません。ボランティア活動に取り組ませるということも含めて、可能性はゼロではないと期待はしています。教員の移動がないので、なんとか頑張っていければと思っています。

唐木：キリスト教系の学校ということで、やはり建学の精神の中にボランティア活動のようなものはあるのでしょうか。

柴田：東日本大震災後すぐに東北学院大学でボランティアステーションが立ち上がり、当校の卒業生たちも少なからず活動に参画した実績があり、また大学の教員と共同で、プレカレッジという高校2年次からのカリキュラムを作っています。その中には、そもそものキリスト教の精神に基づいた活動を生徒の学びの機会とすることは十分にあると思いますし、やはり私立なので教員の移動もなく、やりやすいところだと思います。

唐木：もう1つ柴田先生に聞きたいのは、生徒たちは卒業の後に、どのように活動を継続しているのかということです。小中学生は難しいですが、高校以上の子どもたちには、その子のその後の人生みたいなものも見えるのではと思います。

柴田：震災時に高校生主体のボランティア団体を立ち上げた生徒は、埼玉にある大学に進学し、そこでまたボランティア団体を立ち上げ、そのリーダーをずっと務めました。ボランティア活動に参加をしていた子が大学の選択をする時に、地域の特に復興支援に貢献したいと進路選択をして、幸いその方向が叶いましたので、大学に進んだ後も個人的につながり、声をかけると学校行事に必ず来てくれるということがありますし、大学生の一員として地域の震災復興のイベント等の運営に関わる子は、少なからずいると思います。

神山：当校では夏休みに3日間かけて淡路島を250km走るマラソンがありますが、それにはたくさんの人出が必要で、卒業生が応援に来てくれます。その多くは大学生です。当校は勉強は苦手な子たちの学校で、貧困家庭も多く、大学に進学する考えが家庭に無い場合が多く

【I：まとめ・トピック】

いのですが、来てくれる先輩がひとつのロールモデルになり、実際にたくさんの生徒が大学に進学しています。ボランティア活動に携わった子たちの大学進学率は非常に高いです。活動がきっかけで教員になった卒業生も2人います。高卒で働いている子たちも、文化祭の時の24時間リレーマラソンに、有給を取って毎年手伝いに来てくれます。中には自分の勤める工場の人から寄付金を預かって来てくれる子もいます。彼らは年1回、母校に帰るのを楽しみにして手伝いに来てくれ、だから感激して止められません。

唐木：社会貢献活動を考える時、普通は「Think globally, act locally」（地球規模で考え、地域で行動する）と言うのですが、その逆もあるのではないのでしょうか。つまり「think locally, act globally」。地域で様々なことを考えた子は、たとえ他の地域や世界に住んでも、ちゃんと行動するということ。社会貢献活動の本質は、実はそちらの方が強いような気がします。社会貢献活動を子ども達の学校教育で広めていくための企業による支援の事例は結構あるのですよね。

高橋（陽）：あります。この3月、企業の教育活動、特に学校支援をしている事例をまとめました。それらをホームページにアップするので参考にさせていただき、必要があればつなぎたいと考えています。

ボランティア活動はいわゆる善行であり、思い遣りの心を育て、自尊感情、自己肯定感を高めるといっていますが、ここで終わっているからこそ教科に入らないところはあると思います。教育課程、カリキュラムの中に入れるためには、課題に対する目標をきちんと持たせて、それをどう達成するかを考える、まさにPDCAのプロセスが大事です。社会貢献活動はやることに意味がある、は入り口であって、そのままでは自己満足ではないと言われてしまう。リアルな課題を設定したら、子どもたちは自分たちの活動が本当に役立ったのか、どうやったらもっと役に立つだろうかということを自ら考えます。教育カリキュラムに入れるからには、期待する成果と、その方法論が非常に大事です。

またサービスラーニングとして、地域社会の課題を教科学習に関連付けるということでは、商店街・町内会の人口の何%の人に協力してもらうか、は数学になりますし、依頼状を書く作法は国語の中に入れて頂く、ポスターやチラシの作成は図画工作など、カリキュラムに入れるような組み立てが大事なのではないかと思っています。また学校で実施するためには、学力が上がる、ということが最も効果があると思っています。間違い無く上がっているとは思いますが、これをどう評価するかが課題です。「良いこと」で終わってしまいがちなので、思考方法や子どもたちの取り組みへのサポートは非常に重要だと思っています。

（了）

2 学校・企業・NPO が育てるシティズンシップと地域創生

唐木 清志氏（筑波大学人間系 教授）

【2019年1月26日（土）石巻セミナー】

（１）日本の若者は、自己肯定感や社会変革の意識が低い

まず、会場にいる中学生、高校生に質問します。「私は自分に満足している」ということについて、「そう思う・どちらかと言えばそう思う」と考えている人は手を挙げて下さい。...それだけですか。ほかの人は「そう思わない、どちらかと言えばそう思わない」ということで良いでしょうか。これ（図1）は、今から5年前に日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンで行なわれ、13歳から29歳までの男女を対象に、各国の人口の男女比に合わせて1000のサンプルを抽出し、調査したものです（『平成25年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』（内閣府））。結果を見ると、ほかの国と比べて日本は圧倒的に自分に満足している傾向が少ないというデータが出ています。アメリカでは実に80%を超える人たちが、自分に満足していると答えているのに比べると、日本は圧倒的に少ないです。

次に「つまらない、やる気がでないと感じたこと」という質問です。「あった」「どちらかと言えばあった」という人は手をあげてください。これも同じ調査ですが、日本は他国に比べると圧倒的に高いというデータが出ています（図2）。

次は「あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか」という質問です（図3）。「希望がある」「どちらかと言えば希望がある」と思っている人は手を挙げてください。これも圧倒的に日本は少ない。最後は、社会的な活動の意味を問う質問です（図4）。「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」について、「そ

図1：「私は自分に満足している」
（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」回答割合）

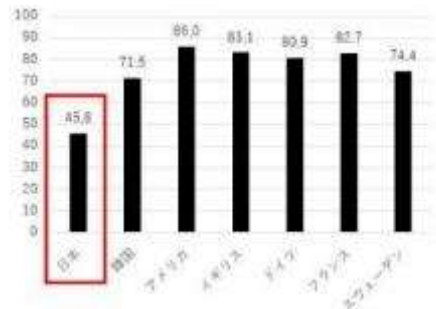


図2：「つまらない、やる気が出ないと感じたこと」
（「あった」「どちらかと言えばあったそう思う」回答割合）

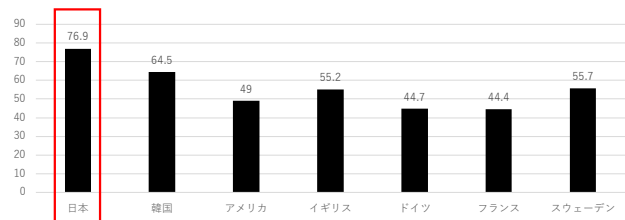


図3：「あなたは、自分の将来について明るい希望を持っていますか」
（「希望がある」「どちらかと言えば希望がある」回答割合）

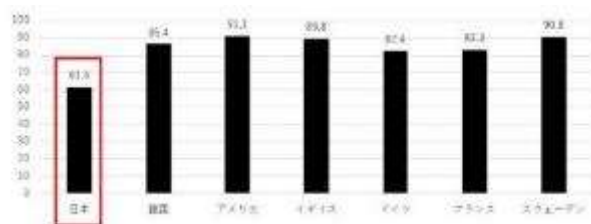
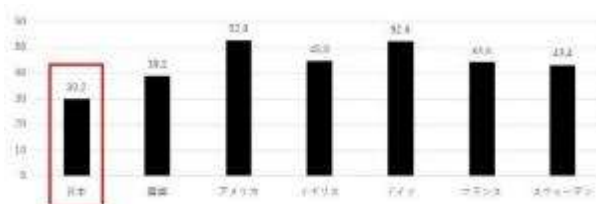


図4：「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し
変えられるかもしれない」
（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」回答割合）



【I：まとめ・トピック】

う思う」「どちらかと言えばそう思う」という方は手を挙げてください。ゼロですか。これも日本は圧倒的に少ない。

皆さんが行なっている社会的活動は、やはりこうした事柄にとっても良い効果を及ぼすという願いをもって私も研究をしていますし、日本フィランソロピー協会や様々な企業の人たちも努力しています。

（２）サービ斯拉ーニングの5つの特徴

私が研究しているのは「サービ斯拉ーニング」です。これは、社会的な活動をして市民性、英語でシティズンシップと言いますが、市民性を育む学習です。「サービス」と「ラーニング」がくっついて「サービ斯拉ーニング」と言い、5つの特徴があるとされています。

まず1つ目は、市民性の育成を目標としていること。市民と言うと少々分かりづらいですが、この社会をつくっている一人の人間に成長することを目標としています。2つ目、学校で学んでいることを地域の学びに活かす。3つ目、社会問題の解決を目指した社会的活動に関与する。4つ目、振り返りを通して社会におけるあり方や生き方について考える。5つ目、地域の人々とつながる。本日、これから発表される中学校や高校、大人の方々の活動は、皆さん今日初めて聞いたであろうこのサービ斯拉ーニングの5つの特色をどこかに含んでいるのではないかと思います。このような勉強や学習がこれからこの日本に増えていくことを私も望んでいるし、日本フィランソロピー協会も望んでいて、少なくともここにいらっしゃる大人の方々はみんな願っていることじゃないかと思いますので、中高生の方々は、ぜひ活動を通してどのようなことを学んだのかを発表してください。

米国の大学生の言葉

- ・この授業を通して、私はニュー・ブランズウィック市（ニュージャージー州）の市民になることができた。もちろん、この授業の履修以前より、私は資格的には市民であった。しかし、現在のように市民であることを自覚してはこなかった。この授業を履修することで、今では私は自らが市民であることを自覚するに至っている。市民は自らの地域社会において、活動的な役割を担えなければならない。市民は変革のために働くのであり、決して、一般に問題なしとみなされる現状をただ受け入れるだけでは不十分である。私は今では身の回りに起きている様々な事柄に敏感に気付けるようになっていく。
- ・ニュー・ブランズウィック市は、バスのルートを超えてどんどん拡大している。そこには、助けを必要としている人々、助けを与えている人々や助けを与えることを面倒だと考えない人々、さらには、かつての私のように自分が市民であることを自覚していない人々など、様々な人々が生活している。私は今ではこの町を異なって見れるようになった。ここから遠く離れた社会参加活動の現場へ歩いていくことも、今の私にとっては一向に億劫ではない。「町の細かい部分まで知っている」とさえ、今の私は感じる事ができる。私が町で誰かに出会ったら、彼らは私に挨拶をしてくれる。そのうち幾人かは、私の名前を呼んでくれる。社会参加活動を通して、私は様々な人々と出会うことができたし、彼らもまた私と出会うことができた。現在でも、私は自分自身の社会参加に関する仕事を楽しんでいる。それは私の目を、地域社会で演じる市民としての役割へと、開かせてくれているのである。

「サービ斯拉ーニング」という言葉から分かる通り、これはアメリカから、約20年前に輸入されたものです。アメリカでは誕生して約50年経ちます。サービ斯拉ーニングを通してアメリカの大学生がどんなことを学んだのかを示した作文が左です。この中には何度も「市民」という言葉が出てきますが、この言葉は分かりづらい。中高生にとっては、市民文化会館と言う時に

しか使わないかも知れませんが、自分の町や地域は自分でつくっていける人のことを市民と言いますし、そのような市民が持つ力のことを「市民性」と呼び、そのような力を子どもたちに身に付けさせたいと我々は努力しています。

皆さんが学校で行なってきた活動は「プロジェクト型の学習」と言います。発表の中にプロジェクトという言葉もありましたが、「Project-Based Learning (PBL)」と言います。これには大きな流れがあり、問題を把握して、問題を分析して、行動計画の作成を立てて、行動をして、振り返る、ということ。おそらく皆さんがやってきたことはこのプロセスを辿っているのではないかと思います。大切なのはその時々で必ず問いを立てること。地域にはどのような問題があるのか、問題の原因はどこにあるのか、自分たちには何ができるのか、行動は計画通り進んでいるのか、行動を通して何を学んだのか。私が勉強している教育学では、学習は問いの連続と考えます。立ち止まって考えます。上手くいかなかった時にどうして上

【I：まとめ・トピック】

手くいかなかったのかを考えます。もっと良い方法はなかったのか、と考えます。こうして人は、自分に問いかけ解決しながら学習を進めていく、それをこのように段階として示したものがプロジェクト型の学習と言います。

（３）サービスマーケティングがもたらす5つの変化

このような社会体験的な活動、つまりサービスマーケティングを行なっていくと、5つの点で変わってくると言われています。地域の大人の方々も、子どもたちが変わったと考えるだけでなく、自分たちも変わったということを発見していただきたいと思います。

まず体験した生徒は、市民性を身に付けて少しずつですが成長できるのでは

と思います。教師も、今まで見たことのない生徒の成長に学び、教師として自分は今まで何をしてきたのだろうか、この子たちに何ができるだろうかと役割を決め直します。学校も変わります。地域とのつながりで学校教育の機能がパワーアップするはずで、学校の中だけで閉じている学校と地域に開かれた学校では、子どもの成長も違いますし、場合によっては学力もアップすると言われています。四つ目、地域住民が変わります。生徒の活躍を見て生徒を地域の一員として受け入れるようになる。学校に通っている生徒を見る一面だけじゃなくて社会的な活動をしている生徒を見ることで他の一面見ることができます。この子たちは地域の一員なのだ、ということを感じるようになるのではないかと思います。最後、地域が変わります。子どもや若者の声を活かすようになるので、住民主体の地域が創成されていくのではないかと思います。このような活動を取り入れていくと、生徒も教師も学校も地域住民も地域も変わるということです。

サービス・ラーニングの効果

1. 生徒が変わる
・市民性を身に付けて、市民へと成長する。
2. 教師が変わる
・生徒の成長に学び、教師としての自らの役割を問い直す。
3. 学校が変わる
・地域とつながることで、学校教育の機能がパワーアップする。
4. 地域住民が変わる
・生徒の活躍を見て、生徒を地域の一員として受け入れるようになる。
5. 地域が変わる
・子ども・若者の声を生かし、住民主体の地域が創生される。

（４）地域の中の「子ども・若者」の役割

伝統的な子ども・若者の役割、少なくとも私が中高生の頃の捉え方は右表でした。例えば、資源を使用するものだ、資源の使用者ですね。でもこれが社会的な活動をくぐり抜けた中高生の皆さんはすでに重要な資源で。あるいは消極的な傍観者ではなくて活動的な学習者ではないかと思っています。私が少なくとも中高生の時は、この社会に役に立つなん

て考えたこともありませんでしたが、多分皆さんは自分たちにも何かできる、できることがあるということを意識しているのではないかと思います。様々な形のリーダーの在り方はありますが、皆さんにはぜひ、社会変革のリーダーとして活躍して欲しいと思います。

（了）

伝統的な子ども・若者	サービスマーケティングにおける子ども・若者
資源の使用者	資源
消極的な傍観者	活動的な学習者
サービスの消費者	サービスの提供者
援助を必要とする人	援助者
受容者	提供者
役に立たないという感覚に支配された人	社会変革のリーダー

岡本 和久氏（I-Oウェルス・アドバイザーズ株式会社® 代表取締役社長）

【2018年12月2日（日）東京セミナー】

（１）「お金の教育」が必要

私は1946年に生まれ、1971年に日本の大手証券会社に入社しました。1975年にニューヨークに転勤になった時から証券アナリストの仕事を15年しました。1990年に、ご縁がありアメリカの年金運用会社が日本でビジネスを始めるにあたり転職し、社長に就任しました。それから15年間、年金の運用をしていました。

委託者である年金のお客様に本当に喜んでいただけるためには、運用会社がどういう投資哲学で運用をしているのかよく理解していただくことが必要です。どんな運用手法でも相場環境で良い時も悪い時もあります。一時的に悪いからと言ってすぐ止めてしまうのでは本当の投資成果を得ていただけません。要するに、十分に投資哲学を理解してこそ続けていくことができ、本当に良い成果を得ることができるのです。そういう意味では、まさに教育。資産運用で成功するためにはいかに、知識や哲学を委託者と委託先が共有していくかが一番の鍵になります。



これからは、一般の生活者も国や企業の年金に頼るだけでなく将来のために自分で投資をしなければならない時代になっています。しかし、投資と言っても一般の方はどうしていいかわからない場合が多く、みなさん不安を抱えています。定期預金に入れていても、お金は全然増えません。年金では足りないということもよく聞きます。だからと言って株は不安が大きい。『どうしたらいいのか』ということで、みなさんフリーズしてしまっている。

この現状をなんとかしたいと思い、2005年、投資教育の会社を始めました。初めは大人の方を対象に行なっていたのですが、「子供の頃からお金に関する教育を受けていないことが問題なのではないか」と思い、子供向けのマネー教育も始めました。すでに15年ほど行なっています。

（２）お金は汚いもの？

今日は私が出張授業で子供達にどんなことを伝えているかをご紹介します。私のハッピーマネー®教室には、下は4歳くらいのお子さんから参加しています。

子供達には、お金のイメージに関する事前アンケート調査を行なっていますが、過半数の子供は「お金は汚い」、「お金持ちは悪い人」というイメージを持っています。ただ「お金を稼ぐのはいいこと」で「お金は人に喜ばれて稼ぎたい」とも考えています。

また「お金に関して家族と話しますか」という質問には半分くらいの子は「家ではお金のことは話しません」と答えます。

「お金は汚いもの」「お金持ちは悪い人」、このような考えでは日本社会も経済もよくなるわけがありません。それをまず直していくというのが、私にとってのミッションです。

現在、紙芝居を使って、子供向けセミナーもしています。「ピギーちゃんのハッピーマネー教室」では、まず、人生を大きく3つの区分に分けて説明します。「学びの時代」「働きの時代」「遊びの時代」です。子供には「君たちは今、学びの時代にいて、将来働きの時代に入った時、世の中のためになる仕事ができるように、知識と能力を高めているんだよ」という話を最初にします。

（３）お金は「感謝のしるし」

「お金ってどうして大事なんでしょう？」ということを聞くと、「お金がないと生活できない」「必要なものが買えません」などという返事が返ってきます。確かに、お金があったら欲しいものが買えます。では、「もし無人島にひとりで住んでいたらどう？」と聞くとみんな困ってしまいます。無人島ではお金は何の価値もないのです。

要するに、お金というのは交換価値なんです。お金は欲しいもの、必要なものと交換できるから価値があるわけです。欲しいものや必要なものが手に入ればうれしいし、ありがたいし、助かります。ですから、お金は感謝のしるしです。これが、伝えたい一番の原点です。この視点から、お金にまつわることを見直していくと、随分違った姿が見えてきます。

例えば子供に、「どうしてATMからお金が出るのだろう？」ということを聞いてみても、多くの子は答えられません。お母さんが「お金がない」と言うと、「じゃあATMから出してきたら？」と答えるそうです。ATMはお金が出る機械と思っているのでしょう。

保護者の方が、例えばチョコレートの会社に勤めていて、そこで一生懸命に良い仕事をして月給をもらい、それが銀行に振り込まれているからATMからお金が出る。月給は会社が払う感謝のしるしです。この会社はチョコレートをお店に卸し、お店は商売ができてありがたいから会社にお金を払う。お店に来たお客様は、おいしいチョコレートを食べることができる。うれしいから、お金を払う。ATMから出てきたお金で、今度は本を買ったりまたそこにサイクルができるし、洋服を買えばさらに別のサイクルができます。そういう感謝のサイクルがたくさん何重にも重なりあっているのが経済というものです。

板チョコの値段は1枚100円少しです。チョコレートの原料であるカカオは、ガーナなどから輸入しています。現地ではカカオの実を毎日取っている人がいます。実を割ると中に豆があり、それを乾燥して袋に詰めて船に乗せ、日本の工場にもってきます。そこでおいしいチョコレートになり、お店でそれが売られる。このようにたくさんの人が協力しておいしいチョコレートができ、それがお店で1枚100円少しで売られているのです。この1枚100円の中に、世界中の人たちの労働が全部入っています。おいしいチョコレートを作って喜んでもらおうという気持ちをみんなが共有し、お金がそれを結び付けることでチョコレートはできています。これは、すごい出来事です。お金は、みんなが協力し、助け合い、平和であってこそ本当の価値が生まれます。だから、お金の本質を追求していけば、やはり平和ということになっていくのだと思います。「どうしたらお金を稼げるか？」といえ、お金は感謝のしるしですから、人に感謝をされることをすれば、お金を稼ぐことができます。

（４）×楽しんで儲ける ○楽しく儲ける

子供たちから聞かれる一番多い質問が「楽しんで儲けることはできませんか？」というものです。儲けるためには働かないといけません。働くというのは、端（＝ハタ）の人を楽（＝ラク）にしてあげるから「ハタラク」と言うそうです。人は、楽にしてもらったことに感謝

【I：まとめ・トピック】

し、感謝のしるしのお金を払ってくれます。だから、楽（らく）して儲けるということではできません。でも「楽（たの）しく」儲けることはできます。「て」と「く」、たった一字の違いですけど大きな違いです。

自分が本当に楽しい時ってどんな時でしょう。それはやはり人の役に立っていることを実感できる時です。「みんなに喜んでもらえる時」、これが一番楽しい。だから楽しく儲けたい。みんなから感謝を受ければ、感謝が溜まっていきます。これが信用になります。個人も、会社もそうです。みんなから感謝されている会社は信用度が高いのです。国民みんなから感謝されている国、いろんな国から感謝されている国は信用度が高いのです。中には、感謝されないで人から奪ってしまったり、盗んでしまったり、お金だけ取ろうという人もいます。そういう人はすぐに酷い目に遭うものです。

（５）幸せは、お金だけではない

ところで人生の目的って何でしょう？なぜ、我々は毎日、生活を繰り返しているのか。何のために生きているのでしょうか？単にお金持ちになるためだけに生きているわけではないですよね。出世するためでしょうか。確かに、出世して世の中のために働いている人もいます。ただ、それだけでもない。我々はやはり、幸せになるために生きています。幸せになる大きな要素は、私は次の6つの富だと思います。「お金・健康・家族・友達・楽しみ・社会貢献」。お金は、ファイナンシャル・アセット。健康はフィットネス。家族はファミリー。友達はフレンド。楽しみはファン。そして社会貢献はフィランソロピー。全部「フ」の音で始まる。だから、「六つの富（ふ）」と言っています。これがしあわせの六角形です。皆さんの頭の中でイメージした六角形はどうか。できるだけ外側に広がっていて、できるだけバランスが取れているのがいいのです。

（６）仕事と幸せの関係 ～ピギーちゃん～

六つの富で考えると仕事は、お金や、社会貢献、楽しみが一体化したものです。また仕事は、文字通り「仕える事」です。仕えるというのは、自分より上位の者に奉仕をするということです。上司や神様にも仕えると言いますね。我々にとって一番上位のものはやはり世の中です。世の中に仕えること、これが仕事です。

では、そうやって、みんなから感謝され、良い働きをして稼いだお金を、どう使えば自分の幸福感を最大化できるのでしょうか。私は、ハッピーマネー®の四分法を、ピギーちゃんという貯金箱を使って教えています。普通、豚招き猫の貯金箱は背中に穴がひとつ空いています。このピギーちゃんの背中には4つの穴が空いています。そして、胴体も4つの部屋に分かれています。それぞれの部屋が、それぞれの足に繋がっています。4つの部屋にはセイブ、スPEND、ドネイト、インベストという名前が付いています。それぞれ、「貯める」、「使う」、「譲る」、「増やす」です。これが4つのお金の使い方です。

「使う」というのは、今の自分が喜ぶことです。「貯め」は、今の自分ではなくて少し先の自分の喜びのためです。使いたいのを我慢し、先に伸ばすことでお金が大きくなり、大きな買い物をして大きな喜びを得ます。「譲る」は、自分ではなくて困っている人や、世の中のためにお金を使



【I：まとめ・トピック】

うことです。そして、「増やす」は、今すぐ必要としないお金を、今お金を必要としている人や会社に使わせてあげることです。その会社は、そのお金を使って小さなビジネスの種をまいて、そして陽に当てたり肥料をやったり水をやったりしながら、段々大きくしていきます。本当に世の中のためになる良い仕事をしていると、みんなから感謝をされて、たくさんの感謝のしるしのお金が集まってきます。そして、最初のお金がずっと将来の自分の元に、大きくなって戻ってきます。でもその間には、とても長い時間がかかります。大きな会社、トヨタもパナソニックも、みんな、最初はこういうところから始まっています。

このピギーちゃんの優れた点は、子供たちの意識を拡大することができることです。大人もそうですが、多くの方は、今の自分という小さな箱に意識が縮こまっています。もっと世の中全体のことを考え、そしてずっと将来のことまで考え行動をしていったら、随分、世の中が変わっていくと思います。

（7）一日一善が幸福のカギ

「寄付」、これは「寄せる」「付ける」です。寄せるってなんのことでしょうか？心を寄せることです。付けるというのは、気持ちを付けることです。相手に、心を寄せて、そこに自分のもっている、時間とかお金とか、体力とかそういうものに気持ちを込めて付けてあげる。これが寄付です。その第一歩は、やはり一日一善。電車でお年寄りがいたら席を譲る、あるいはコンビニで、後ろから人が来たら開けた扉を少し押さえておいてあげる、そういうところから始めれば良いと思います。とにかく、どんなに小さくてもいいから1日に1回、人が笑顔になることをしましょう。

いい笑顔をしていると、いい運が次から次へとやってきます。普通いい顔をしている人は、「何かきつといいことがあったに違いない」と思うのですが、実はそれとは逆で、いい顔をしている人の元には、どんどんいいことがやってきます。笑顔は開運の秘訣です。日本フィランソロピー協会に「誕生日寄付」という制度があります。私はこんなことをお勧めしています。一日のうち他の人から「ありがとう」と言われたら一回につき10円ずつピギーちゃんの「ゆずる」に入れる。それを続けて、自分の誕生日が来たらそのお金を自分が応援したい組織に寄付をする。これだと毎日「ありがとう」と言われることをすることがうれしくなってきます。

（8）起業のシミュレーション

このようにお金の基本的なことがわかったら、次は起業家になることを考えてもらいます。自分のできることと世の中が必要としていることをマッチングしてそれを起業しようというのです。

その第一歩として、私のワークショップでは自分の好きなものを三つ書いてもらいます。そのうちの一番好きなものを、どういう会社を作っているかをネットで調べてもらいます。そして、なぜこの商品が好きなのかを書いてもらいます。最後にこの商品を作っている会社がもっと成長するためにどんなアドバイスができるかを考えてもらいます。子供達はみんな、一生懸命欲しいものを選び、そのメーカーの名前を調べて、書いてくれています。

起業のシミュレーションで、ヨシツネ君としずかちゃんという2人のキャラクターをつかってお話しします。しずかちゃんは、犬の散歩をするというサービスを思いつきます。散歩をするには何が必要でしょうか？リードやポリ袋が必要でしょう。チラシも必要でしょう

【I：まとめ・トピック】

ね。すべて合わせて800円くらいです。ヨシツネ君は、夏がすごく暑かったので、レモネードを作ろうと考えます。そして何が必要かというコスト計算をします。さらにいくらで売れば、どれくらい利益が出るか、子供たちに考えてもらいます。ここで、子供たちには、「さあ、ヨシツネ君としずかちゃん、どっちのビジネスの将来性が高そうか？」と聞いてみます。犬の散歩か、レモネードか、正解はありません。

例えば「散歩だ」と考えると、確かに、ペットを飼っている家は増える傾向にあります。お年寄りや忙しい人も増え、代わりに散歩してあげるのは大変ありがたいことでしょう。でも、このビジネスのお客さんは、ペットを飼っている人だけです。

ヨシツネ君の場合には、冬になったらどうするのかという問題があります。秋、冬には代替のものを考えなければなりません。でもお客様の層はペットを飼っていない人にまで広がります。しずかちゃんの場合は最初にリードなどを買えばずっと使えますが、ヨシツネ君は、この商売を続けるには常にティーバッグや砂糖、紙コップなど仕入れをしなくてはなりません。このようなことをみんなで話合っていくと、ビジネスの内容や必要なもの、コストや利益、将来性が見えてきます。

次は、ヨシツネ君としずかちゃんが大人になった場合です。しずかちゃんはかなりしっかり者でお金もしっかり貯めています。ヨシツネ君は300万円を一生懸命貯めて、昔からの夢だったパン屋をスタートさせました。その後「事業を拡大したい」と思いますが、お金は全部お店に使ってしまったのでもうありません。そこで、ヨシツネ君はしずかちゃんに相談します。

ここで、しずかちゃんには2つの選択肢があります。1つは「300万円貸してあげるわ。その代わり、5年経ったら全額返してね。そしてその5年間、毎年1割ずつ利息を払ってちょうだい」というもの。もう1つは「300万、私が出資してあげるわ。これはもう返さなくていい。その代わり、ヨシツネ君も私も300万円ずつ出しているんだから、毎年の利益の半分はこれからずっと私のものよ」というものです。前者は、貸付とか、債券の投資です。後者は株式の投資です。お金を貸した場合には、元本は会社が潰れない限り戻ってきますし、一定の利息はもらえます。出資をして株式を持った場合は、業績が良ければ分け前の配当金は非常に大きくなりますが、業績が悪ければ分け前も減ってしまいます。投資額は返済されません。株式を持つということは株主になるということです。そこで彼女は株式を選択し、利益の半分を自分がもらうことにしました。これは配当金です。

ヨシツネ君のビジネスが非常に上手くいき、配当金もどんどん増えていきます。しずかちゃんは毎年、配当金の全額をもらう必要ないと考えます。「これから私の分け前の半分はヨシツネベーカリーに残すから、そのお金を使ってもっとビジネスを大きくしてちょうだい」と提案します。ヨシツネ君も「それはいい考えだね」と考え、自分も利益の一部を手元に残すわけです。これが内部留保です。内部留保が加わってくると、今あるお金にプラスアルファが上乗せされますから、同じ利益率であれば利益がもっと増えます。こうやって企業が成長していくのです。こういうことを、子供には少しずつ実感させてあげます。

（9）企業は、生活者の思いが形になったもの

仕事をしていくというのは、企業に知力とか労力を提供することです。そして、代わりに賃金をもらって、このもらったお金はハッピーマネー®4分法で使われます。「使う」「貯める」は、消費による企業の応援です。「増やす」というのは、投資によって資金を活用し

【I：まとめ・トピック】

てもらうことです。「私は株なんかやってない」という人の場合でも、例えば年金とか、保険会社などを通じて色々な形でみなさんの資金は株式に投資され、お金は企業に回っています。企業は、世の中の感謝を受けるような良いことをして、それが会社の利益になり株主はリターンを得ます。「譲る」では、資金が非営利団体などにいき、これが良い世の中作りへとつながり、幸福感、満足感になります。自分も世の中も幸せになります。また、ボランティア活動も当然生まれてきます。

今、見たように、生活者と株式会社には、様々な関わり方があります。生活者としては、ひとつは消費者。二つ目は従業員。そして三番目は資本の出資者として企業とかかわっているのです。要するに企業＝生活者なのです。つまり、生活者が、「こういう社会にしたい」という思いを込めて、企業というバーチャルな組織を作り、そこを通して、世の中を良くする活動をしています。これが企業というものです。1985年にピーター・ドラッカーが、アメリカは世界で初めて本当の意味で社会主義国になったと言いました。それはつまり、生活者＝庶民が年金を通じて企業を保有するようになったからだと言っています。私は全くその通りだと思います。しかし、株主資本主義というのはひとつの側面しか見ていないとも思います。私は企業というものは生活者がそれぞれ、こんな世の中になつたらいいなという思いを込めて組成しているのだと考えています。だから、生活者は消費者であり働き手であり、資本の出し手です。消費者はコンシューマー、働き手はエンプロイー、そして資本の出し手オーナー、つまり生活者こそ本当の意味でのCEOなのです。

（10）命よし・地球よし・未来よし

「良い世の中」とはどんな世の中でしょう。近江商人の三方良しという考え方があります。「売り手よし、買い手よし、世間よし」です。私は、現代の新三方良しは「命よし・地球よし・未来よし」だと考えています。命よし、これは人間だけでなく、動物も植物も、全て命をあたえられたものがその命を全うできるような社会です。また、その土台となっている地球の環境が安全であるということであり、そして、それが永遠に続いていくということです。

お金と投資を勉強していくと、みんなが助け合い、支えあって生きているということを感じます。投資を学ぶということは、時間をどう使うかということです。それは、「どう生きるか」ということです。だから、投資やお金のことを勉強することによって、「ご縁のネットワークの中でどう生きていけばよいか」ということを学ぶことにつながります。

投資で成功するために、空間軸で言えば、少数の企業の株式を買うのではなく、全世界の幅広い分野の企業に「分散投資」をするということです。しかも売買で儲けるのではなく、ずっと保有して世界の経済成長とともに資産を増やしていく。これは「長期投資」に他なりません。投資でもっとも大切な原則、「長期・分散投資」は時間軸と空間軸の意識の拡大で無理なく続けられるようになるのです。

仕事は自分や会社、お客様のためだけでなく、世の中に仕えるもの。だから三方良し。世界の平和というのは、まず自分の笑顔から始まって一日一善になり、笑顔が広がり、そして寄付、あるいは長期の投資に結びついていくのです。世界の平和、それはまず自分の笑顔とまわりの人の笑顔から始まるのです。

【I：まとめ・トピック】

（１１）品格＝空間軸×時間軸

私の会社、I-Oウェルス・アドバイザーズと言いますが、「I」はインサイド・ウェルス＝内側の富、「O」はアウトサイド・ウェルス＝外側の富を意味しています。つまり、物心両面での豊かさ、200%の幸せな人生をアドバイスして生きたい、ということにつけた名前です。

私はこういう方程式を考えています。

$$\boxed{\text{内側の富 (I)} = \text{外側の富 (O)} \times \text{1円あたりの幸福感}}$$

外側の富というのはだいたい貨幣価値に「」に換算できますから、外側の富を、1円あたりの幸福感でかけたものが、内側の富になるのです。この1円あたりの幸福感はその人の品格です。品格の高い人はどんな人かという、要するに、意識の空間軸・時間軸が広い人です。今の自分のことばかり考えるのではなくて、世の中のこと、みんなのこと、そしてずっと先のことまで考えて行動できる人、そういう人が品格のある人です。だから、お金や投資のことを深く思索して、意識を拡大し、品格を高めましょう。そして、意識が拡大すると長期分散投資もうまくいき、資産運用も成功します。そうすると、どんどん内側の富は増えていきます。

よく資産が一定額以上増えても幸福感は同じようには増えないといひます。ですから、資産が追加的に増えたらその先は、そのお金を他の人のために使っていくことで、「利他のリターン」を得てトータルの自分の幸福感を高めていくことになります。

（１２）教育の目的とは：教育は長期投資

私は教育の目的は、私はその子が人生最後の日を迎える時に「ああ、自分はいいい人生を送ることができたな」と思えるようにしてあげることだと思っています。

私の知っている方で、国会議員になりグローバルに活躍された方がいらっしゃいます。非常に貧しいお宅に生まれて小さい頃からずっと新聞配達をしていました。配達先の中に近所のおばあちゃんの一人暮らしの家があり、学校から帰る途中にその家に寄り、いつも縁側に置いてある新聞を読ませてもらっていました。新聞で社会のことを勉強し、非常に良い大学を出て、立派な業績を残し、大変活躍されました。

その方がある時、故郷に帰ったときまたまそのおばあちゃんの何回忌かの法事がありました。おばあちゃん是一般の方ですから、有名な人が来たことにみんな驚きました。その時、ひとりのおじいちゃんがやってきて、「あのおばあちゃんは新聞を読んでいなかったのを知っているか」と言ったそうです。実はおばあちゃんは、新聞配達の子に読ませるために新聞を取っていたのです。その時、彼は、自分は陰で本当に色んな人に支えられてきたのだと感じたそうです。

「陰」で支えてくれるものに丁寧語、尊敬語の「お」と「さま」をつけたのが「お陰様」です。このおばあちゃんがしたこととはとてもかっこいい長期投資です。こうなってくると、寄付と投資はすごく近いことがわかります。寄付というのは、基本的には自分の資金を手放して他人に喜んでもらうことです。投資は出資したお金が世の中のために活用され、みんなに感謝され、感謝のしるしのお金が上乗せされて返ってくることです。どちらにしても世の中のために役立ち、自分も幸せになれる。そのお金をまた別のところに、人々のために使うこともできる。お金には、このようなとらえ方もあるのだということを、今日お話しした中で気付いていただければと思います。

（了）